

おごせ教育 Pick up

越生小学校

4月23日、西入間警察の署員をお招きし、交通安全教室を行いました。低学年は安全な歩き方を、中学年・高学年は自転車の正しい乗り方を教わりました。教わったことを生かして、交通事故を防ぎます。



梅園小学校

4月16日、全校なかよし遠足に出かけました。高学年を中心に8つの縦割り班に分かれ、「弘法山」と「上谷農村公園」を巡りました。入学したばかりの1年生も一生懸命よく歩き、公園では班を中心にみんなで楽しく遊ぶことができました。

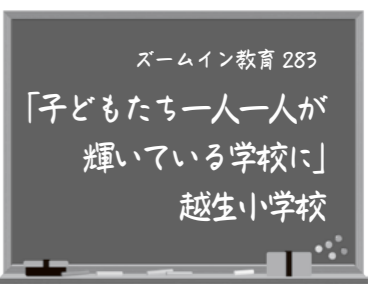


おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

越生中学校

4月23日、1年生が部活動に本入部しました。部活動は、中学校生活の中で自分自身が大きく成長する活動です。3年間一生懸命に頑張り、多くのことを学びましょう。



本校は明治六年の開校以来、今年で百四十八年を迎えます。昨年度には児童一人に一台のタブレットパソコンが整備され、多様な授業を展開しています。また、トイレの大規模改修を終え、さらなる教育環境の整備が図られました。本年度も職員一同、以下の学校教育目標をもとに、日々の教育活動に取り組みます。

越生小学校の 学校教育目標

- すすんで学び合う子
- 仲良く助け合う子
- 元気にやり抜く子
- 学ぶことを大切にする子
- 新たな知識や技能を身に付けるとともに、他から学ぶ姿勢や気持ちをもち、自ら学ぶようにします。



- ②物を大切にする子
整備された教育環境に感謝し、きれいで新しい状態を保てるよう清掃活動に励み、自分の物と同じように公共の物も大切に扱えるようになります。
- ③人を大切にする子
相手のよさを見つけ、それを尊重し、認めることが大事です。その第一歩として、しっかりと「あいさつ」ができるようになります。
- ④命を大切にする子
自身の健康や安全に関心を持ち、自分の命は自分で守る高い意識をもてるようになります。
- ⑤郷土を大切にする子
郷土に関する学習を通じて、その知識を得るだけでなく、郷土への誇りをもち、将来は越生町のために貢献しようとする気持ちを見ることができるようになります。

越生浪漫 No.148

越生ゆかりの偉人 データベースから②

鈴木金兵衛 (1781) 不
明 黒岩村 (大字黒岩) 出身の俳人です。江戸日本橋小網町で古紙回収業を営む傍ら「古帳庵」と号して俳句を嗜み全国に句碑を残しました (現在17基確認)。崇敬する五大明王 (尊称・五大尊) が祀られている岩浜山長徳寺 (廃寺) 境内に、四国八十八ヶ所、西国・坂東・秩父百観音の写し霊場開設を企て、弘化3年 (1846) から札所写 (巡拝碑) 建立の勸進を始め、400人以上の支援者を集めました。



古帳庵買翁肖像「清浜庵蔵巨帖」より

尾張屋三平 (1815) 6
8) 本名・新井宗秀は津久根村 (大字津久根) に生まれ、故郷を離れて、神田於玉ヶ池の北辰一刀流千葉周作に入門しました。一方、浅草・上野一帯を縄張りとしていた、町火消の頭で侠客の新門辰五郎と義兄弟の契りを結んだと伝えられています。新吉原江戸町一丁目 (現台東区千束) に遊郭「寒菊尾張」を開き、尾張屋三平と名乗りました。新吉原講中の講元であった三平は、津久根八幡神社に狛犬を寄進し黒山三滝の道標3基を建立しました。江戸市中に黒山三滝の名を広めた観光プロデューサーです。



左：尾張屋三平 右：比留間良八

比留間良八 (1841) 1
912) 高麗郡梅原村 (現日高市梅原) の甲源一刀流の名門出身の剣術家です。一橋慶喜上洛の際の警護役に就任、江戸に戻り上野戦争では彰義隊14番隊長として戦いましたが敗れ、姉の婚家先の黒岩村横田家の土蔵に数日間潜んだのち、平村 (現ときがわ町) の叔父宅に潜伏しました。明治5年 (1872) に実家を弟に譲って成瀬村 (大字成瀬) の田島家に養子に入りました。明治33年には、日本体育会越生支部撃剣場長に就任し、当町の社会体育活動の基礎を作りました。

渋沢平九郎 (1847) 6
8) 富岡製糸場初代場長の尾高惇忠の末弟で、従兄・渋沢栄一の見立養子です。彰義隊、振武軍に所属し、慶応4年 (1868) 旧暦5月23日、飯能戦争に敗れ逃れる途中、黒山村 (大字黒山) で広島藩の斥候隊と遭遇、孤軍奮闘後に自決しました。「脱走のお勇士様 (だっそ様)」と呼ばれ、頭痛、歯痛、眼病、

瘡瘡等首から上の病に効く神様として崇敬されました。
武内久峯 (1859) 19
30) 上谷村 (大字上谷) 生まれ、20歳にして上谷村・堂山村組合の戸長に選任、越生村連合戸長や梅園村初代村長を歴任しました。郷土史家、文人としての一面も持ち、明治42年には越生の梅を讚美した俳句・和歌・漢詩を集めた『武州梅園梅林弘報』一名『梅花の葉』を刊行、郷土文化の発展に貢献しました。



武内久峯

田山花袋 (1871) 19
30) 小説家・紀行作家。随想『山行水行』『秩父の山裾』や、紀行文『東京近郊一日の行楽』で越生を紹介しました。
佐佐木信綱 (1872) 1
963) 歌人・国文学者。明治34年に来訪し「人間川高麗川こえて都より来しかひありき梅園のさと」ほか2首を残しています。

野口雨情 (1882) 19
45) 詩人。昭和8年の八高線開通を記念して『越生小唄』『山吹の里』(作曲は藤井清水) を作詞しました。
長谷部秀邦 (1883) 1
961) 医師で県議会議員。「世界無名戦士之墓」(国登録有形文化財) は、氏が昭和24年に建設運動を始め、同30年12月8日に完成した第二次世界大戦戦没者慰霊廟です。
桑原翠邦 (1906) 9
5) 「現代書道の父」と呼ばれる比田井天来に師事し、東宮御所書道御進講となった書家です。龍徳寺境内に書院を構え、山門の「安禪不必須山水」「滅却心頭火自涼」や、山吹の里の「山吹の歌碑」を揮毫しています。



『越生小唄』『山吹の里』(昭和58年制作のレコード)